

令和2年度  
入学試験問題

第3回

国語

- 1 問題用紙は監督者の指示があるまでは開いてはいけません。
- 2 開始のチャイムが鳴ったら、最初に問題用紙と解答用紙に受験番号と氏名を記入して下さい。
- 3 答えはすべて解答用紙に記入して下さい。
- 4 記述で答える問題は、特に指定のない場合、句読点や符号は一字として数えるものとします。
- 5 問題は1ページから14ページまであります。

受験番号		氏名	
------	--	----	--

森村学園中等部

一、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

※この問題は、著作権の関係上、掲載できません。

※この問題は、著作権の関係上、掲載できません。

問一

①「友だちがいないことで悩んでいる君」とありますが、この場合の「友だち」は、どのような「友だち」のことを指していますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア つまらなくても一緒にいられる友だち

イ 面白くて遊びを知っている友だち

ウ 大事なことを語り合える友だち

エ 語り合わなくても信頼できる友だち

※この問題は、著作権の関係上、掲載ができません。

問二

A から C に当てはまる語を次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア でも      イ また      ウ しかも      エ たとえば      オ だから

問三

② 「こういう友情」とありますが、どのような関係のことですか。本文中の語句を用いて二十字以上三十字以内で答えなさい。

問四

③ 「自分の孤独に耐えられない人が、その孤独に耐えられないために求めるような友だちは、やっぱり本当の友だち、本当の友情じゃないんだ。」とありますが、「自分の孤独に耐えられない人」が「本当の友だち」を作れないのはなぜですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 孤独に耐えられないような弱い人のところには弱い人間しか集まってこないから。

イ つらい孤独に耐え抜いた人にしか真の友情は見つけられないものだから。

ウ 孤独という状況じょうきょうの中では本来他人を愛するような心の余裕はないはずだから。

エ 孤独の中で自分と向き合えない人は、他人を愛することもできないから。

問五

④ 「それまでは君は、自分の孤独を、うんと豊かにして待っているんだ。」とありますが、「自分の孤独を豊かにする」とはどういうことですか。三十字以上四十字以内で説明しなさい。

問六 —— ⑤ 「君が君のペットを愛するように愛する」について、次の問いに答えなさい。

(1) これを言いかえた二十字以内の部分本文中に求め、ぬき出しなさい。

(2) これと対照的な「愛する」形はどのようなものですか。その具体例として最も適当な意見を述べている人物を次から選びなさい。

Aさん 「私は教員をしていて、仕事に強いやりがいを感じています。どんなに反抗的な生徒でも根気強く向き合い、愛情をもって接しています。」

Bさん 「私は休みの日にサンゴ礁を保護するボランティア活動をしています。地元の人々から愛される海を長く守りたいと考えているからです。」

Cさん 「私にはお付き合いしている恋人がいます。有名企業で働くエリート会社員なので、すこし不器用なところがあっても愛おしく感じます。」

Dさん 「私には先日息子が生まれました。子育ては想像以上に大変ですが、愛らしい寝顔を見ると何があってもこの子を守りたいと思います。」

問七 —— ⑥ 「でも、それが自分のためなんだ」とありますが、そういえるのはなぜですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 他人を嫌うというイヤな感情を持つことが、自分を愛せない原因になるから。

イ 自分の好きな人だけを愛することは、自分の成長につながるから。

ウ 自分を愛する人になることが、他人へのイヤな感情を生まないことになるから。

エ 嫌いな人を丸ごと受け入れることが、自分をもっと愛せるきっかけになるから。

問八

——⑦「世のため人のために何かをしたいと願うのなら、一番最初にしなければならぬこと」について、次の問いに答えなさい。

(1) 筆者が「一番最初にしなければならぬこと」として挙げているのはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で

答えなさい。

ア 他人を愛すること

イ ペットを愛すること

ウ 嫌いな人を愛すること

エ 自分を愛すること

(2)

次に挙げるのはインターネットの掲示板に寄せられた悩み相談の投稿です。あなたがこの相談の回答者ならどのように回答しますか。ここでの筆者の主張をふまえて回答を記述しなさい。

「何から始めたらいいのか教えてください。」

私は幼稚園生の時からアイドルが好きで、家族でもよくコンサートなどに行っていました。コンサートやテレビで、楽しそうに歌ったり踊ったりしているアイドルを見ると、とにかく楽しい気分になって、元気になります。そこで、最近ではこんな風に、お客さんを楽しませられるようなアイドルになることが私の夢になりました。今小学五年生なのですが、まず何から始めたらいいと思いますか？

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私は妹のうみかから頼まれて鉄棒の練習につきあっていた。しかし、私が自分の用事を優先した日、うみかは一人で練習して、腕を骨折してしまふ。幼い頃から、うみかは宇宙飛行士になる夢を持っていた。その夢を、私のせいでうみかがあきらめねばならなくなったことに、私は責任を感じている。

学級だよりの清書用方眼紙の前に、「何でも好きに書いていいですか」と尋ねると、湯上先生は「へ？」と声を上げた。私が笑わず、じっと見てるのに気づいて、表情を改める。そして、「いいよ」と答えてくれた。

「二学期からみんなそうしてるじゃないか。自分の興味があることを書きなさい」

「わかりました」

ミーナと一緒に職員室を後にする。

これまでみんなが「銀河」に書いた記事は「球技会のメンバーの発表」とか「遠足がありました」とか、そういうこと。行事がある時はいいけど、そうじゃない時は「係の紹介」とか「授業がここまで進んでいます」とか、さらに味気ない記事になる。だけど、それでも悪目立ちするよりはずっといい。私は、自分もそういうものを書こうと思つた。——二学期の、実際の今日になるまでは。

「はるか、何書くの？ 興味があることって何？」

「ちよつと、気になることがあつて」

言つてしまつてから、思わせぶりな言い方になつたんじゃないかとあわてて否定する。

「ごめん。恥ずかしいから、ミーナにも後で見せるね」

「そつなの？」

案の定、ミーナがつまらなそうに唇を失らせた。

うみかの入院は結局、夏休みいっぱいしかかつた。

だけど、エンターバーの打ち上げにはどうにか間に合つて、私たちはうちのテレビで、スペースシャトルの下から噴き出す炎と空に向かつて消えていく影の中継映像を見た。毛利さんはこれから一週間ぐらい宇宙にいることになるそうだ。

誰より興奮しているだろうに、うみかはシャトル打ち上げの間、ほとんど喋らず、ただ食い入るようにして画面を見つめていた。録画した映像を何度も何度も再生して、毎日のニュースでエンターバーのことが報道されるたび、熱心に見入る。ギブスをしていない方の左手が、ぎゅつと、拳を握つて、震えるのが見えた。

あ、泣くのかな、と思って顔を見ると、うみかの表情が、これまで見たこともないくらい嬉しそうに輝いていた。人間は、別に笑顔じゃなくてもこんなふうに嬉しさを表現できるんだって初めて知って、私にも、妹の喜びと興奮がそのまま伝染してしまう。なぜか、私が泣きそうになった。

お母さんが許可してくれた「6年の科学」を、うみかは自分の「5年」と合わせて熟読して、私にも「科学」や他の本、新聞で知ったというたくさんのことを教えてくれた。

アポロ計画から、今回のエンターバー号の打ち上げまでの歴史。毛利さんが宇宙で何をするのか。宇宙と地球、エンターバーの中と日本の小学校をテレビの生中継で繋ぎ、毛利さんが私たち子供に向けて宇宙から授業をしてくれるらしいと聞いて、うみかだけじゃなくて私もわくわくする。

一九八六年のチャレンジャー号の事故を受けて、今回の計画が遅れたことも、その時、うみかから教えてもらった。知らないうちに唇をきゅつと噛んでいた。これまで興味がなかったから、そんな歴史があったことだって私は知らなかった。

机の前で、私は深呼吸して、方眼紙に「銀河」の見出しと、最初の一行を書き始める。

「現在宇宙に行っているスペースシャトル「エンターバー」は、「努力」という意味です。」

学校に関係ないことを書くのは、浮く人間の仲間入りかもしれない。だけど、私たちには教室の「ここ」がすべてじゃなくてもいいんじゃないだろうか。教室の机の前に座ってても、それと並行して気持ちもずっと遠い宇宙を向いていることだってある。

ただ文章を書いているだけなのに、途中、④何度か息が切れた。自分がすごく恥ずかしいことをしようとしているんじゃないか、あるいは、真面目ない子に見えることをしてるんじゃないか、それをみんなに見せようとしているんじゃないかと考えたら、不安がおなかの底から喉までを、わつと満たす。

でも、私は、これをうみかに読んで欲しい。あの子に教えてもらったことが、刷られてみんなに配られて、学校に認められるものになったんだってことを、見せたかった。

清書用のペンを持ち直す。用意した修正液は、ほとんど使わずに済んだ。一気に書き上げる。文章を書くのが楽しいなんて、初めて感じた。完成した「銀河」の原稿を、両手で掴む。見出しを見つめ直す。

「毛利衛さん、宇宙へ」

「無事にミッションを終えて帰ってきてくれることを祈っている。」と書いた最後の言葉は、書いた後から頬がかーっとなるくらいで、かっこつけすぎたかもしれないと反省したけど、結局、そのまま残した。

それはたぶん、うみかと、そして私の今の一番の気持ちだったから。

⑤ 毛利さんが宇宙に行ってるうちに印刷して配って欲しい、と先生に申し出ると、湯上先生は原稿を読んだ後で「わかった。今日配るよ」と約束してくれた。

ミーナにも、今回は読ませなかった。いつもは、提出するものがある時は事前にお互いのものを読み合い、褒め合ったりする私たちには初めてのことだった。私は抜け駆けをってしまったような居心地の悪さを感じたまま、帰りの会まで過ごした。

「今日の『銀河』は、はるかさんが書きました。配ります」

前から順に、「銀河」が配られてくる。見覚えのある自分の字が印刷にかけられているのを見ると、死にそうになるくらいドキドキした。誰かにかかわれるかもしれない、と覚悟していたし——、もっと言えば、誰かが興味を持って読んでくれないだろうか、感想を言ってくれないだろうか、といい方への期待もかなりしていた。

しかし、みんな「銀河」を、あっさりと折ってしまいこんでしまう。私の肩から力が抜けていった。

帰りの会が終わわり、「一緒に帰ろう」とミーナが席までやってくる。あんなにも読ませなかったことを後ろめたく思っていたのに、私の「銀河」に関するコメントもなかった。なんだ、このぐらいのことだったんだ、と思ったら、急にそれまで気張っていた自分がバカみたいで、惨めで、ほっとしたけど、それ以上に奥歯を噛みしめたいくらい、悔しかった。

帰ろうと教室を出かけた、その時だった。

「はるかちゃん」と、名前を呼ばれた。

振り返ると、学級委員の柵さんだった。「銀河」に「みんなの『銀河』物語」を書いたあの子だ。普段はほとんど話したことがない。

「今回の『銀河』、面白かった」

大きな眼鏡の向こうの黒目がちな目が、私を見ていた。私は咄嗟には答えられず、目を見開いて彼女を見つめ返す。柵さんが笑った。

「これまでで、最高の記事だよ。毛利さんで一号作っちゃうなんてすごい」

「そう、かな」

「うん」

⑥ 答えながら、頬が熱くなっていく。「ありがとう」と言葉が出るまで長く時間がかかった。身体の真ん中に柔らかな光が灯ったように、さっきまでの嫌な気持ちが消えていく。優しい気持ちが満ちていく。

⑦ それは、うみかで見上げた夜空の暖かさとかどこか似た気持ちだった。記事だけじゃなくて、うみかが褒められたような誇らしい気持ち。口元が勝手にゆるんで、笑顔になってしまふ。

帰った私が差し出した「銀河」を、うみかはじっと覗きこんで、読んでいた。クラスメートに見せる時より、ずっと、緊張した。

うみかから感情たっぷりな誉め言葉や感激の涙を期待したわけじゃなかったけど、読み終えたうみかはいつものような無表情だった。

「これ、私のため？」

明け透けな言い方で尋ねてきた。

「うん」

「ありがとう」

なんでもっと感動的に反応してくれないんだろうってイライラしたけど、仕方ない、とあきらめる。これがうちの妹で、うみかはこういう子なんだから。

翌日学校に行ったら、湯上先生から職員室に呼ばれた。日直でもないし、呼び出しの理由に心当たりがなくて、おっかなびっくり先生の机まで行くと、方眼紙を渡された。

「また、書いてみないか」

息が止まった。先生が続ける。

「もうすぐ毛利さんが宇宙から帰ってくる。帰ってきたら、そのことでまた一号、書いてみないか」  
方眼紙を持つ指に、力が入らなかつた。——嬉しくて。

この時も、うみかの顔が思い浮かんだ。あんなふうに感情の起伏の薄い妹だけど、それでも、私が真っ先に嬉しい知らせを伝えたいのは、あの子だった。

(辻村深月「家族シアター」より)

※ 問題作成の都合上、原文の表記を一部改めたり、文章の一部を省略したりしたところがあります。

問一 —— ①「自分もそういうものを書こうと思ってた」とありますが、「そういうもの」とは、ここでは、どのような記事ですか。その

説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 学校行事の紹介や様子を伝える内容の記事

イ 学校生活の日常の範囲を超えない内容の記事

ウ クラス以外の人には興味を持ってない内容の記事

エ 先生が本来望んでいるような内容の記事

## 問二

——②「知らないうちに唇をきゅっと噛んでいた」とありますが、ここから読み取れる「私」の心情の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア うみかからエンアバー号打ち上げにいたるまでの歴史を聞き、自分も宇宙への知識を深めてきたが、今回の計画が遅れた事情を初めて聞き、自分にもまだ知らないことがあったことを悔しく思っている。

イ 宇宙飛行士になりたいという、うみかの夢を聞かされているうちに、自分もその夢を共有している気持ちになっていたため、事故のせいでエンアバー号の計画が遅れてしまったことを残念に思っている。

ウ うみかから宇宙に関するいろいろなことを教えてもらっているうちに、自分もすっかり宇宙に魅せられていたが、輝かしい歴史の背後に痛ましい事故があったことを初めて知り、胸を痛めている。

エ うみかから聞く宇宙に関する話はどれも興味深く、自分も一緒になっていてわくわくしていたが、恐ろしい事故の話を知り、宇宙飛行士になりたいといううみかの将来にわずかな不安を感じている。

## 問三

——③「私たちには教室の「ここ」がすべてじゃなくてもいいんじゃないだろうか」とありますが、ここから読み取れる「私」の心情として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 教室の決められた席で授業を受けるのに精一杯で、自由に空想する余裕を失っている今の子供たちに対する同情

イ 教室の中で浮くことを恐れて、書きたいことも自由に書けない、今の自分たちを束縛する学校の雰囲気に対する反発

ウ 教室内で定められた各自の役割を守ろうとするあまりに、誰もが個性のない良い子を演じていることへの批判

エ 教室の中で、各自が自分の立ち位置にとらわれて、自由に考えたりふるまったりするのをためらっていることへの疑問

## 問四

——④「途中、何度も息が切れた」とありますが、それはなぜですか。「私」の気持ちになって、三十字以上四十字以内で説明しなさい。

問五

——⑤「毛利さんが宇宙にいるうちに印刷して配って欲しい、と先生に申し出る」とありますが、書いた記事を先生に提出するときの「私」の心情として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 毛利さんとエンアバー号という、学校生活に関係のないことを書いたことで、この先自分がクラスの中で浮いてしまうのではないかと恐れ、早くこの役割から解放されたいとあせる気持ち

イ 興味のある宇宙の話題を記事にしたことで、自分が文章を書く楽しさを初めて体験することができたので、クラスの人にも興味のあることを文章にする楽しさを知ってもらいたいと願う気持ち

ウ どういう反応が出るのか不安はあるものの、宇宙での毛利さんの活躍と、その無事の生還を心から願う自分とうみかの思いを、みんなにも読んでほしいと願う気持ち

エ 一般には知られていない、エンアバー号の打ち上げにいたるまでにさまざまな歴史があったことを、毛利さんが宇宙にいる間にみんなに知ってほしいと、急ぎ立てられるような気持ち

問六

——「『ような』について、用法が同じものを次から一つ選び、記号で答えなさい。」  
「ような」

ア 表通りはとてもさわがしいようだった。

イ 彼のように正直な生き方をした人はいない。

ウ この十年間、そのような事件はなかった。

エ 人生は川の流れのように過ぎる。

問七

——⑥「『ありがとう』と言葉が出るまで長く時間がかかった」とありますが、それはなぜだと考えられますか。その理由の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 柗さんの言葉が信じられず、落ち込んでいる自分を気づかっているだけなのではないかと、一瞬、彼女を疑ったから。

イ 柗さんに「最高の記事だよ」と褒められたことがあまりに意外で、うれしさをすぐに実感できなかったから。

ウ 優等生の柗さんとは普段から親しい間柄ではなかったため、どんなふうに話したらいいのか戸惑ってしまったから。

エ 柗さんと仲良くなると、自分もまじめな良い子に見られるのではないかと、ミーナの目を気づかされたから。

問八——⑦「さっきまでの嫌な気持ち」とありますが、その気持ちを具体的に述べている一文を本文中に求め、最初の五文字をぬき出しなさい。

問九——⑧「記事だけじゃなくて、うみかが褒められたような誇らしい気持ち」とは、どういう気持ちですか。その説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の記事が学校の友だちに認められただけではなく、そこに書いた宇宙のことを教えてくれた自分の妹までが認めてもらえたかのように、うれしさに得意になる気持ち

イ 自分の記事が褒められたことのおうれしさ以上に、宇宙飛行士になる夢が絶たれても必死にがんばっているうみかの努力が報われたことに、ほっとする気持ち

ウ 自分の書いた文章だとはいえ、その内容の大半はうみかから教えてもらったので、その知識が間違っていなかったことが証明されて、うれしくてたまらない気持ち

エ 自分の書いた文章の上手い下手よりも、記事の中に書いたうみかのことを学級委員の們さんが褒めてくれたのがうれしくて、自慢したくなるような気持ち

問十 本文全体を通して、「うみか」と「私」はどのような人物として描かれていますか。その説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 宇宙のこと以外はまったく興味がなく、勉強も運動もあまり得意ではない「うみか」と、姉としてなんとか妹に自信を持たせて他人から認められる子にしたいと思っている「私」

イ 宇宙に対する情熱を人並み以上に持ちつつも、感情をストレートには表に出さない「うみか」と、そんな妹をよく理解して、彼女の気持ちに寄りそおうとしている「私」

ウ 小さい頃から宇宙に興味を持ち、宇宙飛行士になることが夢であった「うみか」と、怪我をさせてしまった後ろめたさから妹の機嫌をそこねないように気を使っている「私」

エ 宇宙に興味のなかった姉にその面白さを教えてあげようとする「うみか」と、そのおかげで先生に褒められる通信が書けたことを妹に感謝したいと思っている「私」

三 次の①から⑧の——部のカタカナを漢字になおし、⑨から⑫の——部の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

- ① 父の会社では春に人事イドウがある。
- ② 落石で道路がスندانされた。
- ③ インフルエンザの予防チュウシヤを受けた。
- ④ 往復乗車券はウンチンの割引がある。
- ⑤ ご出欠をシキユウおしらせください。
- ⑥ 京都には神社ブツカクが多い。
- ⑦ 学校の授業料をオサめる。
- ⑧ 監督の指示にシタガって守りを固めた。
- ⑨ 目標のために骨身をおしまない。
- ⑩ のんびりと雨垂れの音を聞く。
- ⑪ 晩秋には色づいた葉が落ち始める。
- ⑫ 歴史は国家の興亡の繰り返しだ。